

# 保育者の絵本読み聞かせに関連する要因の抽出

長屋佐和子, 小河 妙子<sup>1)</sup>, 鏑水 秀和<sup>2)</sup>

Factors related to reading picture-books to children in early  
childhood education.

Sawako NAGAYA, Taeko OGAWA<sup>1)</sup>, Hidekazu YARIMIZU<sup>2)</sup>

2019年11月7日受理

## 抄 録

本研究は、保育者の絵本読み聞かせ場面にかかわる要因の抽出を行い、保育者の経験年数による熟達化の差異について検討した。

保育者5名が園児に対して絵本を読み聞かせている場면을ビデオ撮影した。そのビデオ映像を視聴したベテラン保育者2名に自由に討議するよう依頼し、発言内容について計量テキスト分析を行った。

その結果、教育的な意図、保育者の行動・感情、子どもとの信頼関係、子どもの問題行動、絵本を読むときに大切なこと、自然な読み聞かせの6クラスターが抽出された。保育者の経験年数による各クラスターの出現頻度について検討した結果、経験年数1年では子ども集団に対する自然な読み聞かせが主となるが、経験年数4～6年では教育的な視点と関係があり、経験年数20年では特定の子どもに対する配慮が関係することが示された。

これらの結果から、経験年数によって読み聞かせの特徴が変化し、より複雑化・個別化していく様子が示された。

Key words：保育者、絵本読み聞かせ、ビデオ分析、テキストマイニング、熟達化

## 1. 問題

幼・小・中・高校の教諭、保育士、さまざまな領域における心理援助職など、人を対象とした職業では、専門領域に関する学術的知識に加えて実践的な知識が求められる。専門的な訓練と経験を経て熟達していく過程を熟達化といい、実践に関する知性を実践知という(楠見, 2019)。心理援助職における熟達化では、指導者や職場のスタッ

<sup>1)</sup> 東海学院大学 人間関係学部

<sup>2)</sup> 明治学院大学 心理学部

フなどとの関わりを通して次第に職業的アイデンティティが変化し（近藤・長屋，2016），10年以上の経験を積むことによって熟達していくことが示されている（長屋・永田・深津・野副・立川，2017）。また，熟達化は直線的に進むのではなく，実践の初期の時期に一時的な停滞や後退が生じることも指摘されている（長屋ら，2017）。心理援助職における熟達化では，継続的なスーパーバイズや研修による専門的知識の獲得も重要な要因である（近藤・長屋，2016）。

一方，保育の現場では，子どもに近い視点を取ることを重視し，保育者が子どもの姿や行動から内面の要求を読み取って共感的にかかわっていくことが重視されている（野口・鈴木・門田・芦田・秋田・小田，2007）。保育者の熟達化は，日々の保育実践によって，体験的な暗黙知として獲得されることが重視されると考えられる。

野澤・井庭・天野・若林・宮田・秋田（2017）は，保育者の熟達化研究の動向について概観している。それによると，保育者の熟達化に関する研究は，保育実践全体にかかわる意識の表象としての実践知，日常的な実践場面に埋め込まれた暗黙知としての実践知，実践知の形成過程の3つに大別される。野澤ら（2017）は，日常的な実践場面に埋め込まれた暗黙知に関する研究の特徴として，「片付け場面」や「協同遊び場面」といった具体的な場面や行為に焦点化して，その場における暗黙知の明示化を試みる傾向があると指摘している。例えば，「片付け場面」を選定した砂上・秋田・増田・箕輪・中坪・安見（2012）は，片付け場面がどの園においても日常的で不可欠な活動であるだけでなく，保育者にとってある活動に区切りをつけて次の活動への移行するための独自の実践知が必要とされると述べている。具体的な場面を設定した実践知研究により，保育者の実践知は園の構造的な特徴や教育理念を反映（砂上・秋田・増田・箕輪・安見，2009）したものになることが指摘される一方で，子どもの年齢や園の違いを超えて状況による一貫した特徴を示すことが明らかにされている（砂上ら，2012）。

日常的な保育場面の一つとして，絵本読み聞かせ場面が挙げられる。「幼稚園教育要領」（文部科学省，2017）では，絵本を通じた言葉の獲得だけでなく，絵本によって言葉に対する豊かな感覚を身に着け，先生や友達と心を通わせることの必要性が述べられている。曾澤・片山・高橋（2019）は，絵本の読み聞かせ研究の動向について概観し，「絵本の読み聞かせは，毎日の保育の一場面であり，保育全体の流れの中で前後の文脈や保育者，友達との日々の関係性と切り離せない質の実践」であると述べている。このように，絵本読み聞かせは，保育者による保育実践が集約されたものであると考えられる。

そこで本研究では，保育者の絵本の読み聞かせ場面における実践知にかかわる要因を検討する。その際，保育者の経験年数による熟達化の差異についても検討する。そのため，絵本読み聞かせ場面で生じる保育者と園児との相互作用をビデオ撮影し，それを視聴したベテラン保育者の自由回答についてテキストマイニングを用いた計量テキスト分析を行う。それによって，絵本読み聞かせ場面で重要となる要因について抽出し，経験年数による変化について検討を行う。このような取り組みにより，保育者

の熟達化の過程を明らかにするための要因の把握が可能になると考えられる。

## 2. 方法

### 2-1. 絵本読み聞かせ場面のビデオ撮影

#### 2-1-1. 協力者

私立幼稚園に在籍する保育者5名（男性1名,女性4名）に協力を依頼した。また、各保育者が担任する年少（1クラス）・年中（2クラス）・年長（2クラス）に在籍する園児が参加した。協力者の内訳を表1に示す。

表1. 協力者の内訳

ケースNo.	性別	経験年数	担当クラス	園児数
1	女性	4年	年中	21
2	女性	20年	年長	19
3	男性	1年	年長	19
4	女性	6年	年少	18
5	女性	20年	年中	21

#### 2-1-2. 材料

絵本読み聞かせには、通常延長保育時に使用している教室を使用した。教室内の絵本読み聞かせ場面で展開する保育者と園児の相互作用をとらえるために、ビデオカメラ（Panasonic：HC-V360MS-K）3台、三脚（Panasonic：VW-CT45）3台を使用した。1台目は保育者の上半身を正面から撮影し、2台目は保育者から見た園児の様子、3台目は教室後方からの俯瞰の撮影を行った。教室前方には、保育者用の椅子一脚を設置した。これらの配置を図1に示す。

協力園の保育者2名に読み聞かせに使用する絵本の選定を依頼した結果、「いろいろバス」(tupera tupera, 2013)が選定された(図2)。選定時には、3歳～6歳の子どもに対応できる絵本であること、なるべく色々な言葉が含まれることを選定基準とした。この絵本の対象年齢は2・3歳、B5変型判、32ページであった。撮影した時間帯は、園児が通常教室で活動している午前10時から11時であり、撮影時間は入室から退室まで概ね15分程度であった。

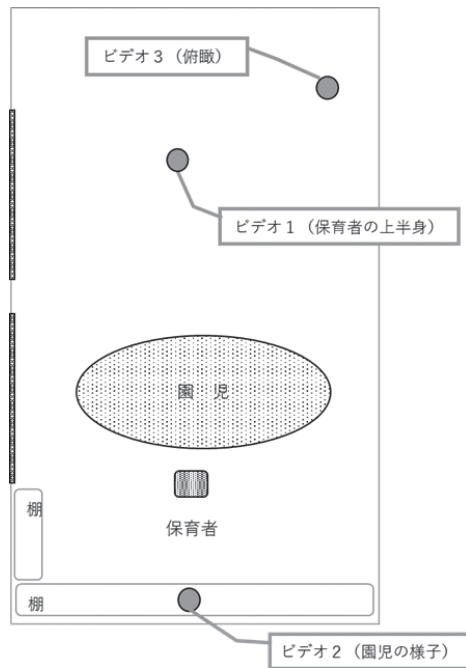


図1. 教室の設定



図2. 絵本読み聞かせに使用した絵本  
「いろいろバス」  
(tupera tupera. 2013)

### 2-1-3. 手続き

保育者と園児が撮影場所の教室に入室する前から撮影を開始した。教室には保育者への教示及びビデオ機材の操作のために、3名の実験者及び1名の実験補助者が待機した。

保育者と園児が入室すると、実験者は保育者に絵本「いろいろバス」を手渡し、教室前方に設置した保育者用の椅子に座っていつものように絵本を読み聞かせるよう伝えた。実験者及び実験補助者は教室後方の園児の視界に入らない位置に移動した。保育者は園児に絵本の読み聞かせを行った。読み聞かせが終了すると、実験者は保育者から絵本を受け取り、園児とともに退室するよう伝えた。退室後にビデオ撮影を停止した。

撮影した3台のビデオ画像は4分割画面（3画面を使用）に集約した。

## 2-2. 絵本読み聞かせ場面に対する自由回答

### 2-2-1. 協力者

保育者2名（女性、それぞれ公立幼稚園39年勤務、公立保育園39年勤務）に協力を依頼した。

### 2-2-2. 材料

前項で撮影した絵本読み聞かせ場面（5場面）のビデオ映像を使用した。

### 2-2-3. 手続き

5名の保育者による絵本読み聞かせ場面のビデオ映像は、プロジェクターによってスクリーンに投影し、協力者に同時に視聴させた。2名の協力者に、各ビデオ映像を視聴して感じたことを自由に討議するように伝え、発言内容を実験者が筆記した。全ビデオ視聴後に、絵本読み聞かせについて自由に意見を述べるように伝え、同様に発言内容を実験者が筆記することにより記録した。

### 2-2-4. 分析方法

記録した発言内容から、保育者による絵本読み聞かせに関する要因を抽出するために、KH Coder（樋口，2014）を使用した。KH Coderは計量テキスト分析を行うためのフリーソフトであり、現在さまざまな分野で応用研究が行われている。計量テキスト分析の特色は、言葉を計量的に分析することにより、客観性・信頼性の高い分析が可能であることに加えて、第三者による比較・検証が行いやすいという点にある（樋口，2017）。

### 2-2-5. 倫理的配慮

本研究は、第二著者の所属機関による研究倫理審査委員会の承認を受けている。本研究の実施にあたって、実験・調査に参加する協力者の人権が侵害されないことがないよう、事前に必要な説明を行って理解と参加の同意を得た。また、プライバシーの保護、資料の保管・利用などについても十分に配慮した。

## 3. 結果

本研究は、保育者による絵本読み聞かせの要因を抽出することを目的としている。そのため、保育者が絵本を読み聞かせている場面を撮影し、その映像を視聴したベテラン保育者が感じたことを記録した。作成したテキストデータは、KH Coder を用いて分析を行った。

### 3-1. 絵本読み聞かせに対する自由回答の頻出語

KH Coder を使用して、絵本読み聞かせに対する自由回答の頻出語（3回以上出現）を、品詞を限定せずに抽出した（表2）。総抽出語数は1,327語であった。16回以上出現した語は「子ども」、「絵本」、「読む」であり、計77語であった。「教師」、「見える」、「声」、「大切」は7語の出現回数、「大きい」、「配慮」、「必要」は6語の出現回数であった。

表2. 自由回答の頻出語（3回以上）

抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
子ども	32	先生	5	関係	3
絵本	29	内容	5	教育	3
読む	16	日常	5	信頼	3
教師	7	聞く	5	早い	3
見える	7	本	5	動かす	3
声	7	意図	4	読み方	3
大切	7	感じる	4	年齢	3
大きい	6	見る	4	部屋	3
配慮	6	行動	4	面白い	3
必要	6	自然	4	様子	3
座る	5	目線	4	理解	3
子	5	クラス	3		
思う	5	楽しむ	3		

### 3-2. 絵本読み聞かせ要因の抽出

保育者の自由回答を用いて、階層的クラスター分析（Jaccard 係数による Ward 法）を実施した。その結果を図 3 に示す。

自由回答から、絵本読み聞かせの 6 つのクラスターが抽出された。KH Coder で使用したコーディングルールを表 3 に示す。KH Coder では、コーディングルールに従ったコーディングを行うことができる。これによって、データをいくつかの部分に分類して集計することが可能である（樋口, 2014）。

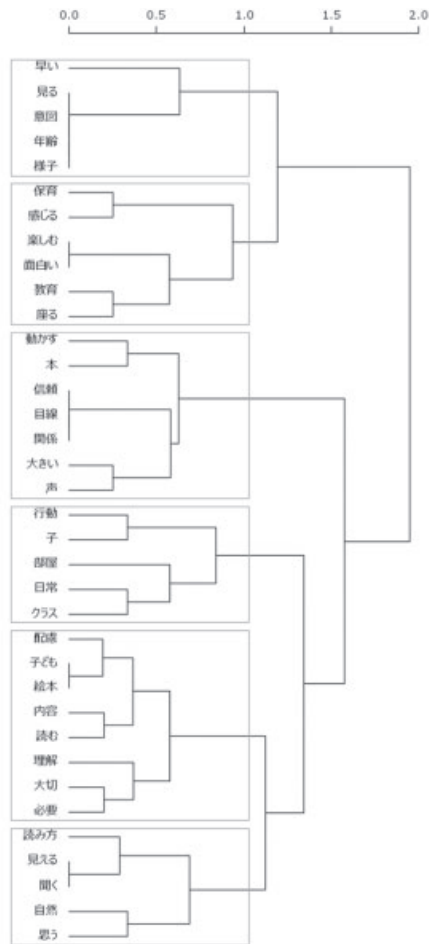


図 3. 絵本読み聞かせ場面に対する自由回答のクラスター分析

表3. コーディングルール

クラスター	コーディングルール
教育的な意図	早い, 見る, 意図, 年齢, 様子
保育者の行動	保育者, 感じる, 楽しむ, 面白い, 教育, 座る
子どもとの信頼関係	動かす, 本, 信頼関係, 目線, 大きい, 声
子どもの問題行動	行動, 子, 部屋, 日常, クラス
絵本を読むときに大切なこと	配慮, 子ども, 絵本, 内容, 読む, 理解, 大切, 必要
自然な読み聞かせ	読み聞かせ, 聞く, 見える, 自然, 思う

### 3-2-1. 「教育的な意図」クラスター

「教育的な意図」クラスターは、「早い」、「見る」、「意図」、「年齢」、「様子」により構成された。このクラスターに関する自由回答の記述によると、「絵本をめくるのが早い」、「絵本を読むのが早い。ゆっくり見たい子どもには早すぎる」、「子どもを近くに集めすぎている。子どもたちが絵本を見るのが苦しそう」などの、絵本の提示に関する発言が見られた。また、「本を読むことの意図が必要。教育的に読むのか、楽しむのか、本の内容や対象年齢によるし、子どもの年齢も大切」などの発言もあり、子どもの発達に合わせた絵本の読み方、教育的な意図の重要性について述べられていた。

### 3-2-2. 「保育者の行動・感情」クラスター

このクラスターは、「保育（保育者）」、「感じる」、「楽しむ」、「面白い」、「教育」、「座る」の単語により構成された。自由回答によると、「保育者が本を楽しむと、子どもも面白さを感じることができる」、「保育者自身の不思議に思った気持ちや、絵本への興味、感想などが、自然に言葉になって表れている」などの発言から、保育者自身の感受性が重視されていることが示された。

### 3-2-3. 「子どもとの信頼関係」クラスター

このクラスターは、「動かす」、「本」、「信頼（信頼関係）」、「目線」、「大きい」、「声」によって構成された。「信頼」の語は、「信頼関係」と複合的に表現されることが多かった。自由回答には、「保育者が子どもの判断や行動を尊重した結果、子どもとの間に信頼関係が生まれている」、「読み聞かせの声を工夫している。子どもたちの声が大きくなったら待ったり、声を大きくしたりしている。子どもたちとの信頼関係ができていく」などの発言が見られた。また、絵本の提示や読み方に関する発言では、「本を動かしたり、止めたりは、絵本の内容によって決めればよい。この絵本はバスが題材なので、動かすことは自然」、「声の大きさがほどよく、よく通るが大きすぎない」、「子どもたちの声が大きくなったら待ったり、声を大きくしたりしている」、「絵本の内容によっては、動かさないことや、子どもの声を拾わないことも大切になってくる」などのように、声の大きさや動かし方が子どもの様子や絵本の題材などと連動していることが指摘された。目線に関しては、「子ども目線で配慮していることが感じられる」



など、子どもの目線に立った配慮の重要性に関する発言があった。

#### 3-2-4. 「子どもの問題行動」クラスター

「子どもの問題行動」クラスターは、「行動」、「子」、「部屋」、「日常」、「クラス」によって構成された。「子」の語は単独では使用されず、「グレーゾーンの子」、「左端の配慮が必要な子」のように、問題行動があるひとりの子どもを指した。行動に関する発言では、「保育者が子どもの判断や行動を尊重した結果、子どもとの間に信頼関係が生まれている」などの、保育者の行動に関するものが見られた。また、「子どもが大きい部屋で興奮している」、「子どもに絵本を読むときは、(背面の絵などの)環境構成にも気を配る必要がある」などの発言では、子どもの問題行動を誘発する環境要因について触れているものが見られた。「日々の積み重ねが、日常的な落ち着きにつながってくる」、「年長なので、2列に並んで入り、他の子とトラブルにならないように、並び順も考えている。クラス運営としては、明確な意図があってよいと思う」などの発言もあり、日常的なクラス運営と子どもの問題行動とのつながりに関する発言が見られた。

#### 3-2-5. 「絵本を読むときに大切なこと」クラスター

「絵本を読むときに大切なこと」クラスターでは、「配慮」、「子ども」、「絵本」、「内容」、「読む」、「理解」、「大切」、「必要」で構成され、特に絵本を読み聞かせる場面で大切とされること、必要とされることが述べられていた。

このクラスターに該当する発言では、「本の面白みを理解しようとする姿勢」、「子どもの年齢」、「絵本の内容を分かっているか、理解しているか、何を伝えたいか」、「子どものイマジネーション(想像)」など、保育者が絵本を理解していることが大切であるとされた。「本を読むことの意図」、「子どもの目線に立って配慮」、「強制するのではなく、絵本に引き込むこと」、「環境構成にも気を配る」などが必要であるとの発言があった。また、「読むのが早い」、「声の工夫」、「絵本を読むテクニック」といった、絵本を読む技術の側面に関する言及も見られた。子どもに関して述べたものでは、「子どもたちを近くに集めすぎている」、「右側の子どもが見えにくいかもしれない」など、位置に関する発言があった。

#### 3-2-6. 「自然な読み聞かせ」クラスター

「自然な読み聞かせ」クラスターは、「読み方」、「見える」、「聞く(読み聞かせ)」、「自然」、「思う」の単語で構成された。

このクラスターは、保育者の自然な読み聞かせに注目するものであり、「(保育者の)絵本への興味、感想などが、自然に言葉になって表れている」、「保育者自身の不思議に思った気持ちや、絵本への興味、感想などが、自然に言葉になって表れている。言葉がリズムカルに出ている」、「絵本は文字や読み方を教えるものではない」などの発言があった。また、「後ろの子どもにも見えるように上げている」、「『見えるところに

座ってね』の声掛け」などの子どもの目線に立った配慮についても述べられていた。

### 3-3. 保育者の経験年数と絵本読み聞かせ要因

読み聞かせを行った保育者の経験年数によって、絵本読み聞かせ要因の各クラスターに関係する単語の出現頻度に差があるか、 $\chi^2$ 検定を用いて比較した。その結果を表4に示す。この分析を行う際、自由回答のテキストデータから絵本読み聞かせに対する総論を除外した。各クラスターに関係する単語から作成したKH Coderのコーディングルールを用いて分析を行った。

その結果、「子どもとの信頼関係」に関する発言は経験年数20年で有意に少なく、「子どもの問題行動」は有意に多いことが示された。また、「自然な読み聞かせ」は経験年数1年で有意に多いことが明らかとなった。

表4. 保育者の経験年数による絵本読み聞かせ要因の各クラスター出現頻度の比較

経験年数	教育的な 意図	保育者の 行動・感情	子どもとの信 頼関係	子どもの 問題行動	絵本を読むとき に大切なこと	自然な 読み聞かせ
1年	0 (0.00%)	3 (20.00%)	5 (33.33%)	1 (6.67%)	10 (66.67%)	7 (46.67%)
4～6年	6 (26.09%)	4 (17.39%)	8 (34.78%)	0 (0.00%)	19 (82.61%)	3 (13.04%)
20年	6 (18.75%)	3 (9.38%)	3 (9.38%)	11 (34.38%)	19 (59.38%)	4 (12.50%)
$\chi^2$	4.457	1.211	6.087*	12.607**	3.384	8.487*

\*: $p<.05$ , \*\*: $p<.01$

### 3-4. 保育者の経験年数と絵本読み聞かせ要因

保育者の経験年数と絵本読み聞かせ要因の各クラスターに関係する単語の出現頻度について、KH Coderを用いて対応分析を行った。その際、絵本読み聞かせに対する総評は除外した。分析の結果を図4に示す。

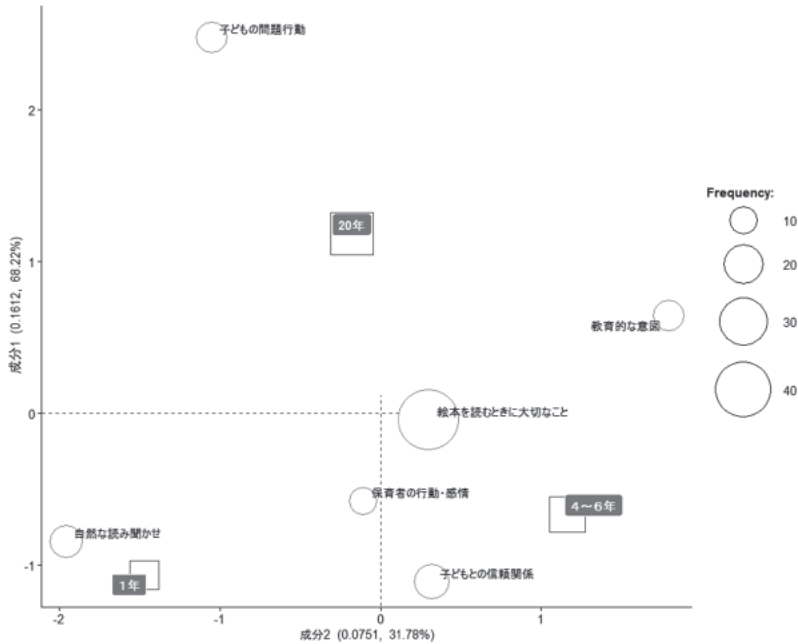


図 4. 経験年数と読み聞かせ要因の各クラスターの対応分析

分析の結果、横軸は「自然な読み聞かせ」—「教育的な意図」を示し、縦軸は「子ども（集団）」—「子ども（個別）」を示していると考えられた。経験年数1年では、主として「自然な読み聞かせ」と「子ども（集団）」と関係があるが、4～6年では「教育的な側面」、20年の経験がある保育者では「子ども（個別）」と関係があることが示された。なお、絵本読み聞かせの基本的な要因は、「絵本を読むときに大切なこと」および「保育者の行動・感情」であることが明らかになった。

#### 4. 考察

##### 4-1. 絵本読み聞かせの要因

本研究では、経験年数1年～20年の保育者による絵本読み聞かせのビデオ映像を用いて、絵本読み聞かせで重視される要因の抽出を試みた。絵本読み聞かせのビデオ映像を視聴したベテラン保育者の自由回答のテキスト分析から、「教育的な意図」、「保育者の行動・感情」、「子どもとの信頼関係」、「子どもの問題行動」、「絵本を読むときに大切なこと」、「自然な読み聞かせ」の6クラスターが抽出された。

「教育的な意図」では、絵本の読み聞かせにおいて重要となる子どもへの配慮や教育的な意図が含まれる。絵本を読み聞かせる際には、子どもの発達に合わせた絵本の選択、提示のスピード、子どもが絵本に集中できるような配慮が求められる。漫然と

読み聞かせるのではなく、保育者自身が明確な意図をもって読み聞かせを行う必要があると考えられる。

「保育者の行動・感情」では、絵本の読み聞かせを行う上で、保育者自身の感受性が重要であることが示されている。保育者自身が絵本を楽しみ、不思議に思う気持ちを大切にすることで、自然に態度や言葉になって表現される。それによって、子どもが絵本に共感し、楽しむことができると考えられる。

また、「子どもとの信頼関係」は、絵本の読み聞かせを通じた信頼関係の確立が含まれる。このクラスターには、子どもに積極的に働きかける保育者の行動が含まれている。絵本の読み聞かせでは、保育者が子どもの判断や行動を尊重するだけでなく、子どもに配慮した声の大きさ、絵本の動かし方、目線など、保育者—子ども間の相互作用を重視した取り組みによって、子どもとの信頼関係が構築されると考えられる。

「子どもの問題行動」では、問題行動がある特定の子どものための配慮に関する内容が含まれている。他のクラスターは子ども集団を対象としているが、このクラスターでは個別の子どもに対する配慮に注目している。ビデオ視聴を行ったベテラン保育者の自由回答は、読み聞かせ場面に限定されず、日々のクラス運営の場面について推測していたことから、絵本読み聞かせ場面は日常的なクラスの様子を反映していると考えられる。

「絵本を読むときに大切なこと」は、絵本を読むことの基本的な姿勢やテクニックなど、読み聞かせ場面で大切な要素が含まれていると考えられる。絵本読み聞かせでは、保育者自身が絵本を理解していること、子どもに何を伝えたいかが明確であることといった絵本理解の側面と、声の大きさや声の工夫、読むスピード、提示方法などの技術的な側面が重要である。

「自然な読み聞かせ」では、保育者自身の感想や興味が素直に表現されることの重要性が指摘される。保育の現場では、絵本を通じた言葉の獲得を促進するといった教育的な意図だけでなく、子どもの情緒的な発達を促し、保育者との共感的な体験を重視する傾向がある。「幼稚園教育要領」（文部科学省、2017）に述べられているように、絵本を通じて「先生や友達と心を通わせること」を体験するためには、保育者自身が自ら感動し、表現することが求められていると思われる。

これらの結果から、絵本読み聞かせでは、保育者自身の絵本への興味や理解、絵本を読む技術に加えて、子ども集団に対する配慮と相互作用の働きかけ、さらには個別の子どもに対する配慮も必要とされることが示された。

#### 4-2. 経験年数による差異

保育者の経験年数による各クラスターの出現頻度を比較した結果、「子どもとの信頼関係」に関する発言は経験年数20年で少なく、「子どもの問題行動」は多い傾向が示された。また、「自然な読み聞かせ」は経験年数1年で有意に多いことが明らかとなった。

これらの結果をさらに検討するために、対応分析を実施した。分析の結果より、横

軸が「自然な読み聞かせ」－「教育的な意図」、縦軸が「子ども（集団）」－「子ども（個別）」であることが推測された。経験年数1年では子ども集団に対する自然な読み聞かせが主となり、教育的な意図や技術的な要因との関係は低い。経験年数4～6年では、子ども集団を対象とした絵本読み聞かせの基本、すなわち「絵本を読むときに大切なこと」、「保育者の行動・感情」、「子どもとの信頼関係」が重視される傾向あり、より教育的な意図を持った読み聞かせと言えよう。これらに対して経験年数20年では、特定の子どもに対する配慮が重視されていることが示された。

本研究の結果は、5名の保育者によるビデオ映像から分析されたものであり、保育者全体に一般化することは困難である。しかし、経験年数によって読み聞かせの特徴が変化し、より複雑化・個別化していく様相が推測される。

#### 4-3. 今後の展望

本研究は、保育者の読み聞かせにおける要因をテキスト分析によって抽出することを目的としたものである。本研究のビデオ映像の協力者全員が幼稚園教諭であることから、保育士とは教育的意図が異なっていることも予想される。また、5名の分析であるため、経験年数の検討は慎重に行う必要がある。今後の研究においては、より多くのデータを用いた分析が求められる。

本研究では、絵本読み聞かせ要因の6クラスター、および「自然な読み聞かせ」－「教育的な意図」、「子ども（集団）」－「子ども（個別）」による2軸を抽出した。これらは保育者と子ども（集団・個別）の相互作用を分析する指標として、客観的な視点を提供するものと考えられる。保育場面では、子どもの身体的発達著しいだけでなく、社会性や協調性、コミュニケーション能力も著しい成長を見せる。そのため、保育者は子どもの成長の先を見据えた柔軟な対応を求められる。子どもの目線に立った思考・行動、声の大きさやスピード、子ども集団と子ども個人への配慮のバランスなど、具体的で幅広い柔軟性が求められる。絵本読み聞かせ場面を研究対象として選定することによって、保育者の日常的な対応のあり方を調査することが可能であることが示された。

本研究では、絵本読み聞かせ場面を選定して調査を行った。その利点のひとつとして、基本的には保育者から子どもに対する指示や指導が行われないことが挙げられる。保育者が指示・指導を行う場面では、保育者の意図は明確である。しかし、絵本読み聞かせ場面では、保育者は子どもに語り掛けて理解を促し、子どもの反応を敏感に察知して読み聞かせに反映することが求められる。本来、人を対象とした専門職の本質は、相互作用の熟達化にある。そのため、絵本読み聞かせ場面で展開される明確な意図を伴わない相互作用は、保育者の熟達化を研究する上で重要であると考えられる。また、このような相互作用が一定の位置に座った状態で展開される点に、二つ目の利点があると考えられる。位置が固定されることにより、さまざまな保育者－子ども相互作用の比較が可能となる。今後の研究では、本研究の結果によって分類された絵本読み聞かせ要因を用いて、読み聞かせ場面における詳細な行動分析・言語分析の実施

が求められる。

<付記> 本研究は、平成30年度～平成32年度（令和2年度）科学研究費補助金基盤研究（C）（一般）（課題番号18K02466：保育者の能力とは何か―実践能力獲得過程の多面的研究。研究代表者：長屋佐和子，研究分担者：小河妙子，鎌水秀和）の助成を得て実施した。また、本研究の実施にあたって、ご協力いただいた園児および関係者のみなさまに深謝する。

## 引用文献

- 會澤のはら・片山美香・高橋敏之（2019）幼児を対象とした集団における絵本の読み聞かせに関する研究動向。岡山大学教師教育開発センター紀要，9，215-228.
- 樋口耕一（2014）社会調査のための計量テキスト分析―内容分析の継承と発展を目指して―ナカニシヤ出版.
- 樋口耕一（2017）計量テキスト分析およびKH Coderの利用状況と展望 社会学評論，68(3)，334-350.
- 近藤孝司・長屋佐和子（2016）関係性の観点からみた，心理臨床家の専門職アイデンティティの発達。心理臨床学研究，34(1)，51-62.
- 楠見孝（2019）実践知と熟達者とは 金井壽宏・楠見孝（編）実践知―エキスパートの知性 有斐閣.
- 文部科学省（2017）幼稚園教育要領.
- 長屋佐和子・永田法子・深津千賀子・野副紫をん・立川知美（2017）臨床心理実践経験が模擬心理面接のセッション進行に及ぼす影響。心理臨床学研究，35（5），514-525.
- 野口隆子・鈴木正敏・門田理世・芦田宏・秋田喜代美・小田豊（2007）教師の語りに用いられる語のイメージに関する研究―幼稚園・小学校比較による分析―。教育心理学研究，55(4)，457-468.
- 野澤祥子・井庭崇・天野美和子・若林陽子・宮田まり子・秋田喜代美（2017）保育者の実践知を可視化・共有化する方法としての「パターン・ランゲージ」の可能性。東京大学大学院教育学研究科紀要，57，419-449.
- 砂上史子・秋田喜代美・増田時枝・箕輪潤子・安見克夫（2009）保育者の語りにもみる実践知―「片付け場面」の映像に対する語りの内容分析―。保育学研究，47(2)，174-185.
- 砂上史子・秋田喜代美・増田時枝・箕輪潤子・中坪史典・安見克夫（2012）幼稚園の片付けにおける実践知：戸外と室内の片付け場面に対する語りの比較。発達心理学研究，23（3），252 - 263.
- tupera tupera（2013）「いろいろバス」大日本図書.